



新しい風でありたい。
 守りに入らず、守られることに甘んじず、軽やかに。
 この「理にかなった美しい手仕事」があたりまえのように在りつづけるために。
 ただ伝統として受け継がれるだけでなく、この先も進化していけるように。
 わたしたちにできること、それは、
 未来を見すえた質の高い日本の家づくりをし続けること。

日本の「伝統建築工匠の技」が2020年12月にユネスコの無形文化遺産に登録。
 大工、左官、建具、畳など、自然素材を活用し千年にわたり日本の伝統的な建築文化を支えてきた職人の技が世界に認められました。



おっかけ だいせんつぎ 追っ掛け大柱継
 古い神社などで見られる匠の技が四季工房の家でも見ることができるよ！



— だから、一つ一つ手刻み。— 職人の手仕事

四季工房の家は国産無垢材100%。調湿効果や断熱性能が高く、耐久性に優れています。そしてなによりも、木の香りと美しい木目、時と共に飴色に変化する経年の美しさが魅力です。ところが、無垢材はその扱いが難しいんです。木はそれぞれにクセ=個性があります。特に「ねじれ」が多い国産材はそれをデメリットと捉え、敬遠するメーカーがほとんどです。現在主流のプレカットによる一律加工では、「くるい」や「割れ」「縮み」が生じ、構造材の結合部が成立しないのです。

わたしたちは一つ一つ手刻み加工をすることで、その「ねじれ」を耐震性という強みに変えることができます。木を見てそのクセと変化を予測し適切に扱う、本物の大工さんの確かな目と腕は、AIを凌ぐ複雑さと精緻さです。手板を描く。墨付けし、刻みをする。木組みや継手、仕口の加工、芯を決めたり、合せ面を工夫したり、それは大工さんと木の対話です。四季工房の家が注文住宅であり、ひとつとして同じ家がないからこそ生きる技とも言えます。そこから生まれる美しい架構が魅力的な空間を創り出しているのです。



手板：伏図を元に継手や組み方などを反映させた大工さんの設計図



四季工房「手仕事編」YouTubeでCM配信中。ご覧になってください。

「匠の技」を未来に継承するために、できることがもう一つ。
 それは若い職人さんを育てること。一緒に大工棟梁のたまごを育てていただけませんか？

現場に足を運ぶと、若い大工さんたちが元気な挨拶で迎えてくれます。そのハツラツとした仕事ぶりは、「いいものを作るぞ!」という気概にあふれています。
 わたしたちは、13年前から本格的に若手大工の育成を始めました。四季工房に入社後、2年目より大工育成塾 塾生として各親方の元で「本物の手仕事」を一から学びます。日々研鑽。5年~8年で一人前に。親方のお墨付きをいただいて、晴れてひとり立ちの日を迎えます。
 四季工房で家を建てることは、未来に、「匠の技」を継承した大工さんを輩出することになるんです。



未来の大工棟梁が育つまで — 大工育成塾 —

入社2年目（塾生1年生）
 親方に弟子入り。道具の手入れ、掃除、あいさつなど基本を学びます。3か月ほどで上半身が一周り大きくなります。

＜塾生寮 匠の家＞

入社1年~3年はゆいの郷の塾生寮に入ります。職人の技が随所に盛り込まれた家での共同生活です。学ぶ意欲のある者はどこからでも学ぶことができます。まさに生きた教材！



塾生と親方の使い込んだノミこんなに違うよ！

あいさつは基本だぞ！

心技体、揃って一人前！

もっと腕を磨いて親方のようになるぞ！

木工事を支えてくれているパワフルな親方たち

塾生5年生

ひとり立ちの準備。木拾い、手板、墨付けなど仕事の流れが一通りわかるように。ここからが棟梁になるための本当のスタートです。仕事の腕だけではなく、業者さんやお客様とのコミュニケーション能力も重要になってきます。

カンナを自分好みに調整できるようになった



食事はしっかり とってもらおうと まかないさんが腕をふるいます。

塾生3年生
 入口、枠が水平・垂直に取り付けられるなど、お客様の目に触れるところもだんだん任せられるように。後輩もできて学びながら教える立場になります。

＜人間育成塾プログラム＞

作業場や現場の仕事だけではなく、年間を通じて様々な分野を学びます。塾生4、5年生が率先して企画します。



他業種の仕事を学ぶ トレーニング（森を知る）



旅行（親睦会） 座学

※次回3月号は「ステイホーム・書斎」について特集します。